

Barstow 校短期研修を終えて

今回の研修は、行く前から緊張しっぱなしでした。なぜなら、初めてのホームステイで、話す言葉は全て英語だからです。一応学校で英語の授業はしていたものの、いざ現地に行って話しても通じる気がしていませんでした。行く前からしていた研究発表練習も Barstow School の生徒たちに通じるのかわからなかったからです。

ホストファミリーとの対面はとても緊張しましたが、会ってみるととても明るい方々で、英語が分からない自分に優しく話しかけてくれました。そのあと、家に案内してもらったのですが、とても広い！自分の家の三倍はありそうな広さでした。家について説明しているときも、ホストファミリーは私にも分かるように分かりやすい英語でゆっくりと話してくれました。日本から持っていったお土産もとても喜んでもらえました。英語でお土産について説明しましたが、言いたい事はなんとか伝わったようで一安心でした。この日は最初こそ、ホストファミリーとの会話もぎこちなくて、まだうまく会話が成り立たないような事もありましたが、だんだん慣れてきたような気もしました。

Barstow School への初登校日。学校に入ると、小学生も中学生も高校生も、たくさんの生徒たちが挨拶をしてくれて嬉しかったです。

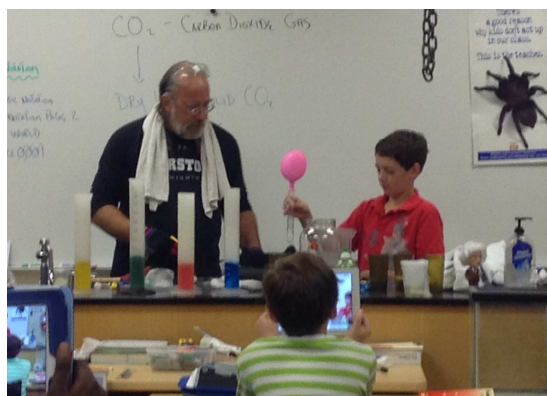
まず、Welcome Assembly がありました。これはほぼ全て生徒だけで作られていると聞いて驚きました。ここで、shadow と対面しました。私の shadow は中国からの留学生で、英語も中国語も話せる人で、天城高校のとある数学の先生にとっても似ていました。Barstow School での五日間は基本的に彼と行動して、一緒に授業を受けました。

まず、barstow の授業について。まず感じた事は、とても自由だという事でした。日本の高校とはちがって、携帯、飲食は自由で、お菓子を食べながら授業を受けている生徒がいる事にとっても驚きました。しかし、そのような自由



の中にいるからこそ、アメリカの高校生は日本の高校生よりもしっかりしていると感じました。授業の進み方も、生徒の発言の方が先生の発言よりも多い気がしました。また、生徒同士での議論も多く、生徒たちの議論にたまに先生が口を出すだけ、というような授業もありました。しかも、内容は日本の高校生のものよりも難しいと聞き、さらに驚きました。

David 先生の授業は、化学と物理についてでした。六年生と一緒に受けましたが、David 先生は生徒たちから人気の先生らしく、授業前には生徒が先生の周りに集まっていました。実際授業がはじまると、とても分かりやすく、楽しく授業が受けられるように様々な工夫がありました。実験が多い事が特に印象に残りました。ここでも生徒たちはとても積極的で、David 先生が質問したらみんな手を挙げて、自分に当てるようにアピールしていました。日本にもこんな授業をするような先生がもっと増えたら理科の嫌いな生徒はいなくなるような気もしました。



研究発表ではとても緊張しました。発表しながらも、内容がちゃんと伝わっているのかよくわからず、とても心配でした。しかし、質問をしてもらえたので嬉しかったです。今回の発表は中学校の時のものを持っていったのですが、日本で発表したときと同じ質問が出たので、面白かったです。日本でもアメリカでも考える事は同じなんだと思いました。発表のあとに、“Your presentation was good!”と言ってもらえたことはとても嬉しかったです。

次の日はホストファミリーと過ごす最後の日でした。お土産を買うのを手伝ってもらったりして過ごしました。最後にお礼を言おうとしましたが、うまく言えなかった事が悔しかったです。

このようにして私のアメリカでの一週間はすぐに過ぎていきました。この研修を通して、私の英語力のなさを痛感しましたが、これから英語の勉強を頑張ろうという気持ちのもとになりました。この研修で得た経験をこれからの学校生活などで役立たせたいと思います。

最後にこの研修へ送り出してくれた家族、準備を手伝ってくださった先生方、引率してくださった、村井先生、仲達先生、ありがとうございました。